

Pink Ribbon Festival in Tsukuba 2018報告書



つくばピンクリボンフェスティバル2018

Breast Cancer Awareness

乳がん最前線！～乳がんと乳がん検診の新しい正しい知識を～



タイムテーブル 2018年4月29日(日) 昭和の日

講演会	つくば国際会議場 大ホール
9:30	開場
10:00	開会式 司会 鈴木 もえみ (フリーアナウンサー) 開会の辞 挨拶 五十嵐立青 (名誉大会長 つくば市長) 植野映 (大会実行委員長 NPO 法人つくばピンクリボンの会理事長) 来賓挨拶 青山やまと (衆議院議員)
10:10	第1部 座長 東野英利子 (つくば国際ブレストクリニック) ①なぜ、乳がんが増えているの？ 池田達彦 杏雲堂病院乳腺外科 科長 ②どうやって受ける？乳がん検診 津田香緒里 つくば国際ブレストクリニック診療放射線技師 ③妊娠期・授乳期と乳がん 田中久美子 湘南鎌倉総合病院 乳腺外科部長 質問タイム
11:20	第2部 座長 植野映 (つくば国際ブレストクリニック) ④術後のフォローアップのあり方 市岡恵美香 筑波大学医学医療系 乳腺甲状腺内分泌外科診療講師 ⑤転移・再発の治療 (薬) 坂東裕子 筑波大学医学医療系 乳腺甲状腺内分泌科准教授 ⑥患者の体験談 (転移・再発しても) 安達輝美 質問タイム
13:00	第3部 座長 原尚人 (筑波大学医学医療系 乳腺甲状腺内分泌科 教授) 司会 ムーラン (チームリライフ代表) ⑦検診結果の読み方 東野英利子 つくば国際ブレストクリニック放射線診断専門医 ⑧家族が乳がんと言われたら 伊藤吾子 日立総合病院 乳腺甲状腺外科 主任医長 ⑨上手なセカンドオピニオンの使い方 海瀬博史 東京医科大学 茨城医療センター乳腺科 科長 質問タイム
14:10	のの字の歌体操 ムーラン 他
14:20	閉会式 原尚人 筑波大学医学医療系 乳腺甲状腺内分泌科 教授 植野映 つくばピンクリボンの会理事長

ピアサロン	会議室304 10:00 ~ 14:00
展示ブース	大ホールロビー 10:00 ~ 14:30

主催 特定非営利活動法人つくばピンクリボンの会 **Tsukuba Pink Ribbon Coalition**
つくばピンクリボンフェスティバル **2018** 実行委員会

名誉大会長 五十嵐立青 / つくば市長

大会実行委員長 植野映 / つくば国際ブレストクリニック院長

共催 茨城県保健福祉部疾病対策課、つくば市、つくば市保健福祉部健康増進課、茨城県医師会、茨城乳腺疾患研究会、公益社団法人茨城県診療放射線技師会、けんこうリンク（茨城県総合健診協会）、筑波大学附属病院、公益財団法人筑波メディカルセンター、公益財団法人日立メディカルセンター、一般財団法人茨城県メディカルセンター、社会医療法人若竹会つくばセントラル病院、医療法人社団筑波記念会筑波記念病院、総合病院土浦協同病院、一般社団法人つくば市医師会、東京医科大学茨城医療センター、茨城県歯科医師会

後援 公益社団法人茨城県看護協会、認定 **NPO** 法人乳房健康研究会、首都圏新都市鉄道株式会社、**NPO** 法人茨城県ウォーキング協会、土浦ケーブルテレビ株式会社、一般財団法人研究学園都市コミュニティーケーブルサービス、つくばコミュニティー放送株式会社（ラヂオつくば）、朝日新聞水戸総局、東京新聞水戸支局、株式会社茨城放送、株式会社常陽リビング社、生活協同組合パルシステム茨城

協賛（順不同） 関彰商事株式会社、つくば学園ロータリークラブ、つくばシティロータリークラブ、株式会社カスミ、有限会社宮島達男事務所、東洋羽毛北関東販売株式会社茨城営業所、古河ヤクルト販売株式会社、株式会社アートネイチャー、株式会社アデランス、株式会社横山印刷、茨城県立つくば美術館内ミュージアムショップ a、一般財団法人茨城県メディカルセンター、医療法人社団筑波記念会筑波記念病院、医療法人慶友会守谷慶友病院、社会医療法人若竹会つくばセントラル病院、永田歯科医院、前島レディースクリニック、医療法人社団新岳会研究学園クリニック、二の宮越智クリニック、杉谷メディカルクリニック、医療法人おおたしろクリニック、石川クリニック、うえの整形外科、けんこうリンク（茨城県総合健診協会）、富士フィルムメディカル株式会社、アストラゼネカ株式会社、エーザイ株式会社、小野薬品工業株式会社、株式会社ヤクルト本社、協和発酵キリン株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、サノフィ株式会社、塩野義製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社、武田薬品工業株式会社、中外製薬株式会社、日本化薬株式会社

協力 日本ボーイスカウト茨城県連盟つくば第3団、森の会・筑波メディカル・ピンクリボンの会、くるみの会、たんぽぽ会、田中佐代子 / デザイン、矢ヶ部優希 / イラスト

展示ブース 茨城県保健福祉部疾病対策課、つくば市保健福祉部健康増進課、公益社団法人茨城県診療放射線技師会、認定 **NPO** 法人乳房健康研究会、茨城県メディカルセンター、乳がん **Q&A** コーナー、株式会社あいおいサポートエージェンシー、コニカミノルタジャパン株式会社、株式会社アデランス、古河ヤクルト販売株式会社、**NPO** 法人つくばピンクリボンの会

♥ 乳がんの特別警報

植野 映

つくばピンクリボンフェスティバル2018大会実行委員長



皆様、つくばピンクリボンフェスティバル2018にご参加いただきありがとうございます。この度の講演会におきましてご講演くださいました先生方、座長の労をお取りいただいた先生方に改めて御礼申し上げます。

この数年の間に乳がんに対する検診のあり方、乳がんの診断と治療には大きな進歩がありました。この医学の進歩は、一般の方々、患者の方々が理解するには難しいところがあります。そこでこの度は、複雑となった乳がんの診療を一般の方にも知っていただくようにと講演会を企画いたしました。

はじめに実行委員会ではKawakita-Jiro法で一般的な問題点を洗い出し、その項目を分類、整理いたしました。そうしましたところやはり患者と一般の方とでは受け止め方が大きく異なることも分かってまいりました。これを基にそれぞれの立場を考えて講演会は3部の構成にいたしました。第1部は一般的な問題、第2部は患者さんが気になる点、第3部は家族も含めて心配する点を中心とした講演としました。また、それぞれの発表は15分間とし、エキスのみをクローズアップしていただきました。質問の受付は各部の最後に設定したためにプログラム通りに進行が行われたと思います。これもひとえに地道に会を支えている実行委員の皆様のお蔭と思います。改めて感謝申し上げます。

さて、いまだに乳がん検診の受診率は50%を超えていません。つくばのように民度の高い市ではすぐに50%を超えるであろうともくろんではいたのですがなかなかです。

がんに罹患するという構図は洪水被害に似たところがあります。今年の洪水を見ましても気象庁の特別警報に従って前もって避難した方もいれば、警報を信じずに逃げ遅れた方も多くいました。このあたりの危機管理の甘さは日本人特有とさえ言われています。日本人は“なにかあればその時に考えればいい、どうにかなるさ”の待ちの構えが多いのですが西洋人では“意思で道を切り開く”といった積極的な姿勢が目立つように思われます。運命論で語られますとそれまでですががんに関しては積極的な危機管理は必要だろうと思います。

まさにピンクリボンの啓発は乳がんの特別警報といえます。乳がんを科学的に分析し、より正確に的確に把握し、検診の重要性を皆様とともに訴えていきたいと思ひます。

♥ 講演会の効果が社会に浸透することを願って

青山 やまと

衆議院議員

「つくばピンクリボンフェスティバル2018」へ乳がん検診の新しい正しい知識を学びに参加致しました。

食生活の変化が乳がんに影響、乳がんのピークは40-50代、国の目標は乳がん検診受診率50%だが実際にはまだまだ、その中でも茨城県は乳がん検診のレベルが高いが国の方で追いついていない、といった貴重なお話を伺うことができました。

講演会を通じて、人の健康、命、その人をめぐる家族等、とても大切なものを考えさせられました。講演会の効果が社会に浸透していくことを望みます。



♥ つくばピンクリボンフェスティバル2018に参加しました

川上 清

茨城県ウオーキング協会顧問

年度初めから本年フェスティバルは乳がん講演のみに絞り、ウオーキングはありませんでした。茨城県ウオーキング協会内には今年は学習中心のフェスティバルなので、ウオーキング無く学習参加は自由とし、募集は行いませんでした。

従って私のウォーキングでの役目は無かったのですが、ウォーキングがあったときも最後まで会場の講演などに参加していましたので、今回も勉強と思い、早くから講演傍聴出席を決めていました。開会に間に合うように水戸を出、常磐線、土浦からつくばセンターへバスを利用しました。ぎりぎり開始時間に間に合いました。

昨年、長年ピンクリボンウォークをリードしたとして嬉しい感謝状を頂きました。副賞になる透明ガラス製ハート型、英文記録のある素敵なノベルティは私の宝となりました。素晴らしく喜んでいきます。改めてありがとうございました。

私は平成元年から7年間、筑波メディカルセンター病院の事務部長として勤務していましたので、ピンクリボンが始まる年の賀状に検診センター長の小野幸雄先生からの添え書きの「ピンクリボンウォークをよろしく」を受けて14年前からウォークの部の関わりを持たせて頂きました。

病院に勤務していた感覚から、私のウォーキング教室には、乳がんを入れようと、参加の最初からフェスティバルの最後まで参加を続けて来ました。そのつながりとして、ウォーキングの無い本年も出席したのです。私は日本ウォーキング協会ウォーキング指導に関して専門講師の資格をもらっています。ウォーキングの大会も月例会もウォーキング教室も開けます。しかし、指導の中で女性の多い受講生に乳がん検診の必要性を説くのは全国でも私だけでしょう。那珂市での教室の時、もっと数多く受診機会があると良いのに、とのご意見をいただきました。さて今回の先生8人、今求められるつくばの乳がんを扱い、診療もする最高の権威たる先生方です。一人15分にきめられた中で講演は続けられました。私ごとき素人に感じられたのは、先生方が病気の説明をするに、患者さんを思いやったことでした。女性にとっては不幸な病と言えるでしょう。5年生存説には直前の再発は厳しいですね。学術的に解した上患者さんへの配慮ある言葉で語られました。つくばの皆さん、恐れる事無く乳がん検診を受け、要再診が出て、安心して任せられる先生方だと聞き及びました。乳がん患者さんの体験談も心を打ちました。診療の良さを得て乳がんからの生還を祈りました。

総司会の鈴木もえみ様の手慣れた進行、3部編成の中で敢闘の座長3先生のまとめが立派でした。のの字の歌体操では会場に恐らく5%ほどの出席だった男性も遅れがちながらも懸命に体を動かす姿がユーモラスでした。

10時開始、2時終了の時間配分も良かったですね。植野映実行委員長先生の思いを十分に反映させ、各方面からやる気満々のボランティアさんを集め、余裕を持った事務局中野潤子さん、山田陽子さん二人の手薄の中の企画力の優秀さを忘れてはいけません。今年のフェスティバルの大成功を基に、総合的に植野先生がおっしゃる検診50%実現の早いことを祈るばかりです。



♥ 新緑の季節のピンクリボン

田中 久美子

湘南鎌倉総合病院 乳腺外科

新緑が美しいつくばで、ピンクリボンフェスティバルに参加させていただきました。

私たちの施設では10月に、つくばでのイベントよりずっと小規模ですが啓発ピンクリボンイベントを行っています。

歴史もあるので、大変多くの方々が関わって運営されているのに感銘いたしました。

当日は、いろいろな講師の先生のお話が聞けて、私自身も勉強になりました。

比較的若年の方の乳がん診療はいろいろと難しいところがあります。今回は「妊娠期・授乳期と乳がん」ということでお話させていただき、「乳癌治療と妊孕性（乳癌治療の中で将来的な妊娠をどのように考えるか）」には触れていませんが、こちら情報共有していきたいテーマであり、今後でもできることをやってみようと考えております。

今後ともよろしく願い致します。



♡ セカンドオピニオンを上手く使おう

海瀬 博史

東京医科大学茨城医療センター 乳腺科

セカンドオピニオンは、上手く使えば自分の・もしくは家族のより良い意思決定補助手段になります。時間・空間・施設・医師を変える事により、理解が深まる可能性があります。そして正しく理解する事は、現在提示されている治療内容に対し納得して向かい合うことが出来るようになるはずです。また、別の施設での治療（転院）を決めるヒントになるかも知れません。それ故、必ず乳腺専門医のセカンドオピニオンを受けて下さい。以前見られたドクターショッピングとはまったく違います。より良い乳がん治療に向き合う為に上手にセカンドオピニオンを利用して下さい。

というメッセージを伝えました



♡ 正しく理解し伝えるということ

阿部 八千代史

茨城県診療放射線技師会

講演会形式のつくばピンクリボンには私にとっては初めてだった。プログラムを見ると聞きたい内容ばかり。放射線技師会として全会員に案内を出した。Facebookにも投稿してみた。多くの方に聞いてほしいと思ったからだ。放射線技師会はMRIと放射線治療について展示をした。私は携わっていないため会員の方に依頼して作ってもらった。これも学生以来の放射線治療の再確認となった。放射線技師であってもすべて正しく理解しているとは限らない。だからこそ今回のような講演会を通じて正しく理解し、正しく伝えていくことが必要だと痛切に感じた。私たち放射線技師にとっても学ぶことが多かったと思う。

患者さんの声も聞くことができた。一方通行でないことが大事だ。展示ブースでの異業種の方との交流から、下着のこと、髪のことなど女性だからこその悩みや工夫を知ることができた。これも理解への一歩だなあと思いながら、充実した時間に感謝した一日となった。

♡ つくばピンクリボンフェスティバル 2018…つくばから発信

小仁所 圭子

石岡市医師会病院

赤塚さんと一緒にスタッフジャンパー管理受付と事務局のブースをお手伝い致しました。

乳がん最前線！～乳がんと乳がん検診の新しい正しい知識を～という表題を掲げた今回の講演会に参加した方の中には、事務局に立ち寄って、「とてもいい講演だったあ。来てよかったあ。」と、微笑みながらほんのりと涙を浮かべて話している人や「メモをとっていたけれど書ききれなかったの。資料はないのかしら。」と話していかれる方もいました。会場は、シーンとしていて、皆さん真剣に聞いていたようです。私達は、残念ながら講演会を聞くことは出来ませんでした。質問用紙の記入も多々あり、確かな手ごたえを感じました。

また、乳房健康研究会のブースには、セミナーで一緒だった方が他県からきており、嬉しい再会になり、協力し合って活動しました。

つくばから発信したピンクリボンの講演が、様々な地域の女性の乳がん死亡率減少に繋がって悲しい思いをする人が減っていくことを願います。



♡ 情報満載のピンクリボンフェスティバル

津田 香緒里

つくば国際プレストクリニック

私が診療放射線技師として乳がん検診に携わるようになって16年になりますが、最初のころに比べると『ピンクリボン運動』や『乳がん検診』を知っている方も増えてきたなと感じます。その一方で、言葉は知っているけれども、乳がんや検診に対して古い知識のままだったり、間違った認識を持っている方もいるのだなと、驚くこともしばしばです。

その中、今年のピンクリボンフェスティバルでは『乳がん最前線!』と銘打って、講演会中心の会となり、情報満載の1日となりました。私も、乳がん検診の種類や受診方法について講演させていただきました。医師による視触診からスタートして、マンモグラフィや超音波といった検査が主流になってきたこと、乳がん検診を受ける際に補助金が出てクーポン券が配布されるようになったこと、対策型と任意型検診についてなど、情報をアップデートしていただけたかと思います。

また、昨年に引き続き『乳がん検診Q&Aコーナー』も開かせていただき、午後からはここでも質問にお答えしました。ここでは超音波とマンモグラフィに関する質問が多く寄せられました。医療機器も10年前、20年前とは大きく変わって、画質も向上しており、普段の検診中にはお話しきれないことも含め知っていただけたかと思います。

講演会、Q&Aコーナーともにたくさんの質問が寄せられ、その関心の高さに、皆様が今まで積み上げてきたピンクリボン運動の効果を感じました。私もつくばピンクリボンフェスティバルを通じて、乳がん検診を正しく受けていただけるよう微力ながら尽くしていきたいと思っています。



♡ 展示ブースに出展して

高木 富美子

認定NPO法人乳房健康研究会

ボランティアの方々にあだけのものをつくれるの

は、毎度のことながら敬服いたします。当会もボランティアベースでどこまでできるかチャレンジしていきたいと存じます。

ブース出展団体としては、申し分のないスペースをご提供いただきましたので、多くの人にお立ち寄りいただきました。ボランティアの方々のみならず、ご参加のみなさんもつくばの方は意識が高く、啓発グッズにもピンクリボンアドバイザーについても高い関心を持っていただきました。とても効果的な活動が展開できました。

最後に、植野先生、中野様、山田様のはじめとする事務局のみなさまに大変お世話になりましたこと、心より御礼申し上げます。また来年もお声がけいただければ幸いです。

♡ 意識の輪、仲間の輪

松原 雪枝

タイマー担当

診察室の医師と患者で、検査室の技師と患者で、患者会のサバイバー同士で、家族、友人、知人との会話のなかで、乳がんという共有体験による「コミュニティ」の意識の輪が広がり、そしてそれが「検診率を高めて、ひとりでも多くの命を救うことができれば」という情熱と行動につながっていく。病いという患者にとっても家族にとってもつらい経験を、それだけで終わらせずに、経験から得た知識、情報、想いを仲間とシェアしながら、ポジティブなエネルギーへと方向転換させていく。医師、患者、家族、友人、職場、地域の人々がそれぞれの立場でかわり、仲間の輪を広げ、互いに励まし、支え合う。そんな貴重で有意義な機会を与えてくれるのがこのピンクリボンフェスティバルだと思います。誰もが「勇気をもらいつつ、自分も勇気を与えられるような存在になれば」という思いでこの活動に参加し、関わり続けることができれば、それこそがこのフェスティバルをこれからも支える大きな原動力になると思います。これからもこの輪を大きく広げていきたいです。



♡ 「のの字の歌体操」 海を渡る～!?!?

ムーラン

チームリライフ代表

「つくばピンクリボンフェスティバル」に参加して4年目の今年。毎年変わらないのは澄み渡る青空と新緑の緑と会場を埋め尽くすピンク色…そして皆さま方のイベントに寄せる熱き思い!!今年はずくば国際会議場内だけの開催でしたので、一点集中でどんどん膨らんで行くその熱き思いに会場はスッポリ包まれていました。私は今回第3部の司会と「のの字の歌体操」をさせて頂きましたので、ステージの上にも伝わって来るそのエネルギーを頂きながら、会場の皆さまとご一緒に踊る「のの字の歌体操」は最高でした!!

今年「のの字の歌体操」が米国MDRTのQOLG(クオリティー・オブ・ライフ・グランド)賞を受賞し助成金を頂きましたので、この日撮らせて頂いた映像をプロモーションビデオの一部として米国にもご紹介させて頂きます。つくばから第一歩を踏み出しました「のの字の歌体操」が又皆さまとご一緒にアメリカの空の下でも聴こえて来たら、メメメッチャ嬉しいですね～～!!

注:1927年に発足したMillion Dollar Round Table (MDRT)は世界69の国と地域の500社以上で活躍する62,000名以上(2017年7月現在)の会員を有する、卓越した生命保健と金融サービスの専門家による国際的かつ独立した組織です。<「MDRT日本会」ホームページから引用>

<https://www.mdr.org/ja/about-mdrt/>

(米国MDRT・HP)



♡ ポスターをデザインしました!

矢ヶ部 優希

筑波大学芸術系

つくばピンクリボンフェスティバルでは毎年、ハート形をしたピンク色の風船が象徴的に使われています。参加者の方々が風船をぎゅっと握りしめる姿を見て、この

風船には皆さんの思いがそれぞれつまっているように感じました。皆さんの思いが、ピンクリボンの活動の輪が、もっともっと広がっていきますように。そんな願いをこめて、つくばの青空いっぱいピンク色の風船が広がる様子を描きました。ポスターを見てくれた方が前向きで明るい気持ちになれるように、やわらかい雰囲気イラストとさわやかな配色を使っています。

♡ とても良い一日でした

渡辺 伊吹

乳がんの第一人者の先生方のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。お人柄が伝わってくるような素晴らしい先生ばかりで、勉強になっただけでなく、心強く感じたり、心を打たれたり、様々な感情が湧いてきて、本当に貴重な一日となりました。また、患者の女性の勇気ある講演が素晴らしく、感動しました。自分の人生についても考えさせられるような講演でした。良いお話を聞かせていただいて、ありがとうございました、と心からのお礼を言いたいです。



♡ ピンクリボンフェスティバルに参加して

赤松 路子

つくば国際プレストクリニック

昨年に続き2回目の参加になり少しだけ気持ちの余裕が出ての参加となりました。

微力のお手伝いをしている中、スピーカーから流れてくる講演を聞いていると、もっと詳しく聞きたいと思う講演がたくさんあり、今後の自分のためにもとても勉強になる講演会でした。

そしてこのピンクリボンの会は、患者さんの支えとたくさんのボランティアさんの力で成り立っていることがわかり、そんな会に少しでもお手伝いできたことに感謝いたします。

現在高校1年の息子が小学校1年生のときに、ピンク

リボンのTシャツを着てサイクリングに参加したことを思い出し、息子から私にピンクリボンのバトンタッチがあったんだと。このバトンが次の方へ、そしてまだピンクリボンの会を知らない方へ興味が持てるように広まってほしいと願います。

♡ ピンクリボンフェスティバルに参加して

北永 葉子

つくば国際プレストクリニック

今年のピンクリボンフェスティバルは講演会のみでウォークや野外のイベントは無く昨年とは違った雰囲気となりましたが、講演会は盛況でした。

会場内は満席となり、一般の方、医療従事者を問わず熱心にメモを取る姿が多く見られ関心の高さが伺えました。講演内容が、検診の受診方法からセカンドオピニオン、授乳期の乳房疾患に至るまで幅広くわかりやすい内容であったことが良かったのではないかと思います。

正に今回のテーマである「乳がんと乳がん検診の新しい正しい知識を」が皆さんの知りたいところであったのではないのでしょうか。

また、乳がん経験者の方の体験談においては、先生方はじめ多くの方々の心に響き涙を流されていたのも印象的でした。11人に1人が乳がんになるといわれる現在、他人ごとでは済まされないと感じつつ、人との出会いや関りを大切に日々を過ごされている乳がん経験者の方に尊敬の念を抱きました。

今後も増え続ける乳がんを身近なこととして捉え、ひとりでも多くの女性を乳がんから守るために、ピンクリボン活動を今後も続けて行きたいと強く感じる一日となりました。



♡ はじめて参加のピンクリボンフェスティバル

白水 直美

くるみの会

一年前までは、乳がんの知識がほぼなかった私。

自分自身の病気がわかってからの一年間は、乳がんというものをよくよく考えました。

治療中は病院の先生や看護師さん他、スタッフのみなさんに助けられました。

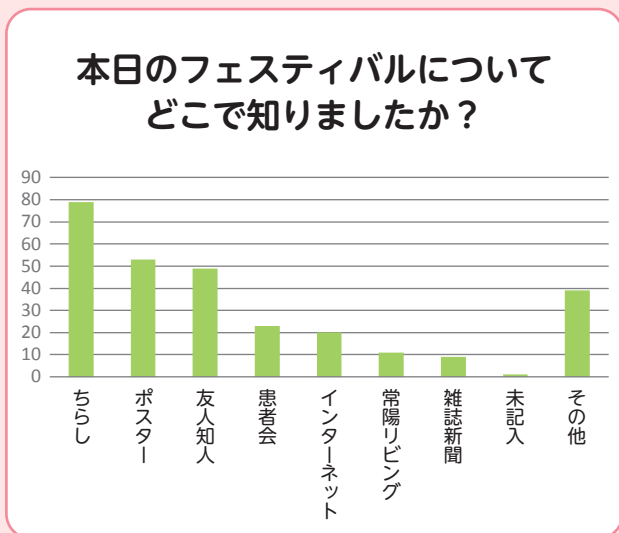
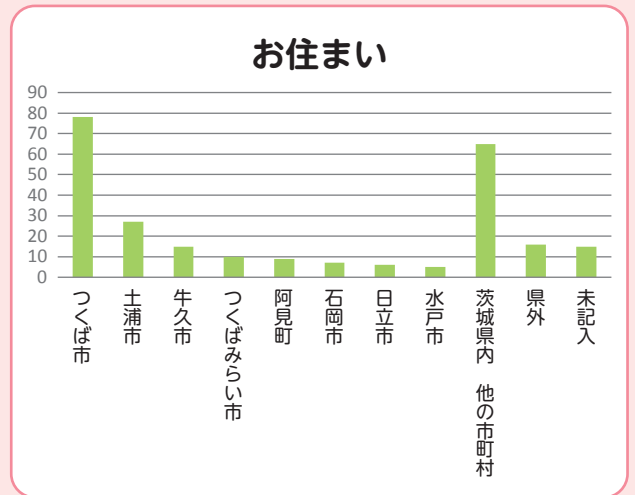
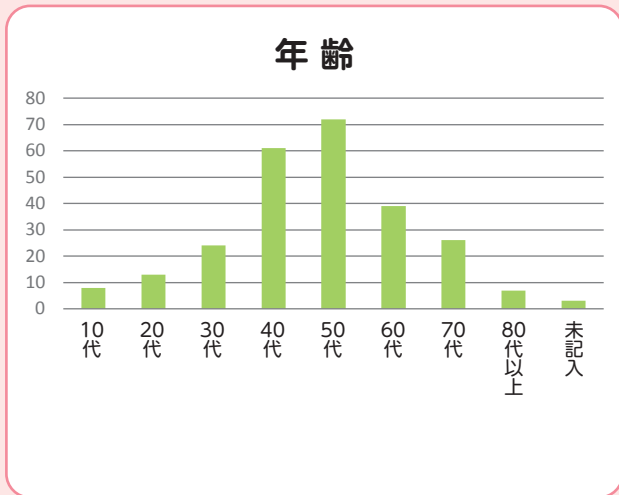
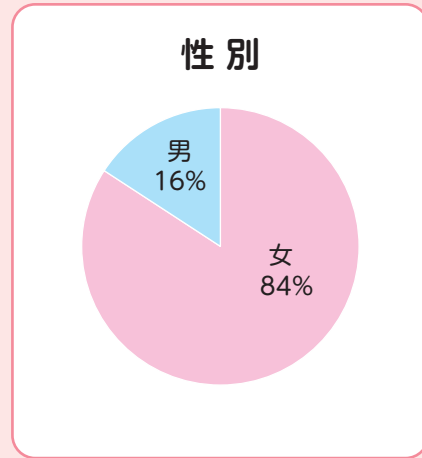
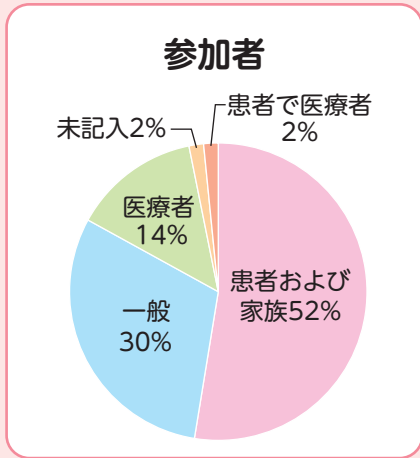
病院で出会った患者さん、患者会でお知り合いになった方々。いろんな出会いがあり、救われました。そんな中、ピンクリボンフェスティバルを知りました。

私は当日、飲み物コーナーの担当でした。一部と二部の間の休憩で参加された方にコーヒー等を配りました。飲み物を片手に楽しそうにお話しされている方や、ホッとひと息ついている方、静かだったロビーが活気づき、和やかな雰囲気がしました。

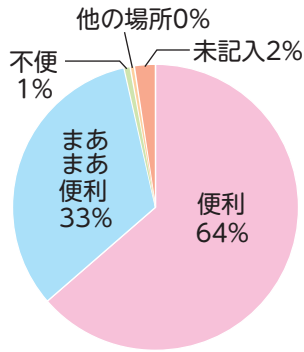
講演は、患者の体験談と、家族が乳がんと言われたらふたつが心にずしと残りました。出たり入ったりしていたのですべての講演をきちんと聞くことは出来ませんでした。あんなにいっぱい先生方の声を一日で聞ける機会はなかなかないのではないかと思います。

初めて参加したピンクリボンフェスティバル、乳がんに関わるいっぱいの方々に会って元気をもらいました。ほんのちょっとしかお手伝い出来ず申し訳ない気持ちも残りつつ、実行委員会の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

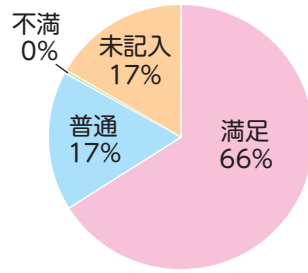




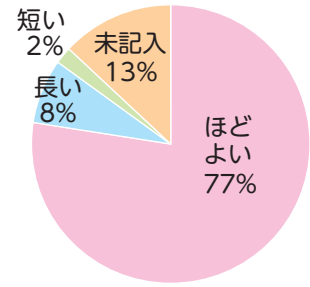
開催場所



イベントの満足度について

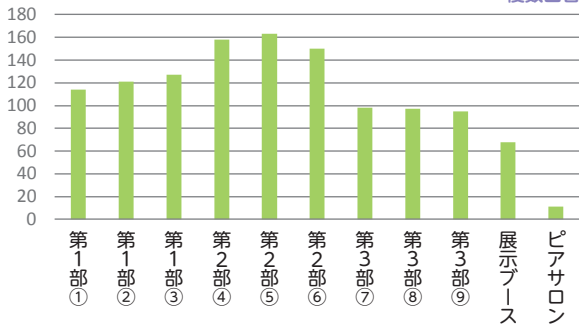


イベントの時間について



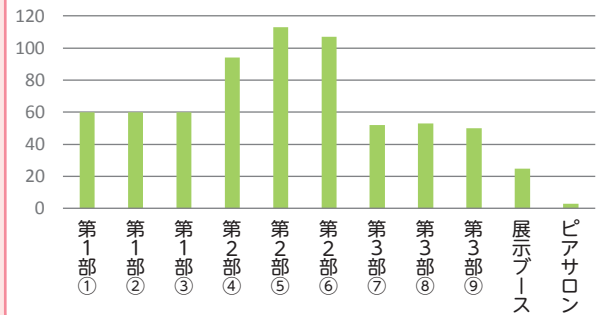
参加した講演やイベントを教えてください

複数回答



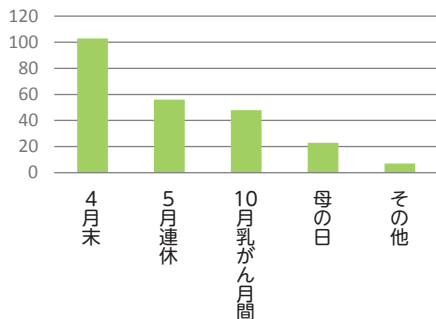
ためになった講演やイベントを教えてください

複数回答



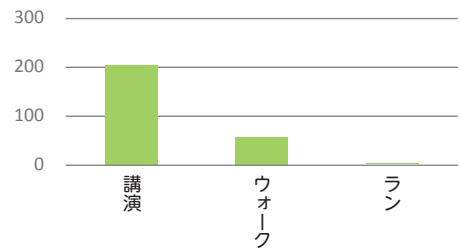
今後のフェスティバルについて日程は、いつが良いですか？

複数回答



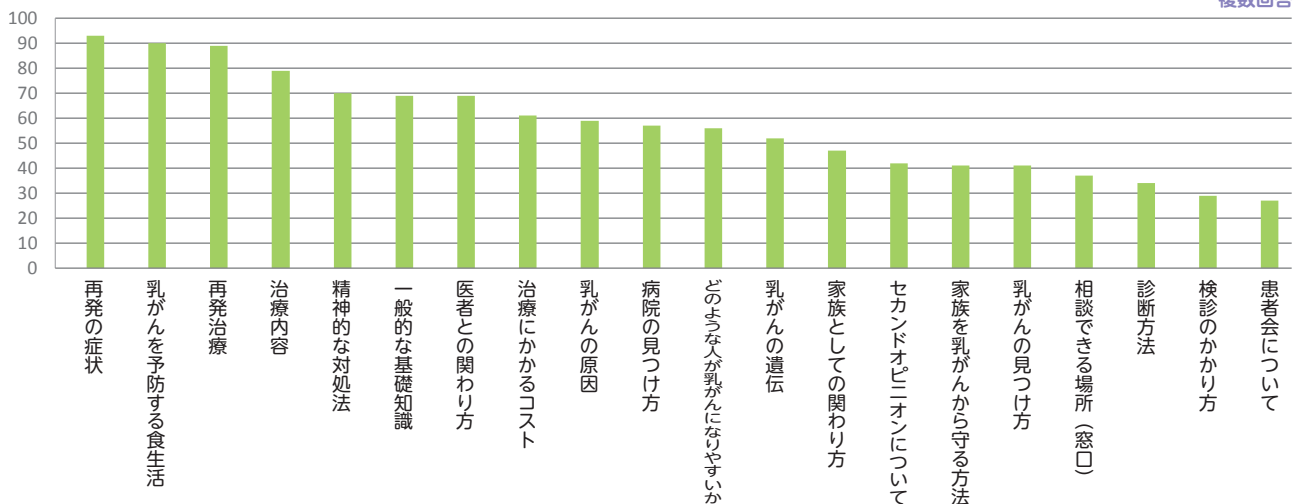
今後のフェスティバルの内容に何を希望しますか？

複数回答



乳がんについて知りたいことはなんですか？

複数回答



【参加者アンケート】

その他、ご意見ご要望ご感想など

98件の記入がありました。勉強になった、ためになった、講演内容がとてもわかりやすかったなどのご意見が多く、特に乳がん体験談に対して感動したという意見がたくさん寄せられました。

①今回の運営やプログラム、進行に関する意見としては

- 進行がとてもスムーズだった
- 10月の乳がん月間での開催もよいのではないか
- 休憩に関して：もう少し長い方がよい、休憩室があることを事前に教えてもらえるとなおよかったです、等
- スライドを少しゆっくり読みたい
- ハンドアウトの配布やホームページへの内容の記載を希望する
- 車椅子席の配置場所や、アンケートの記載場所が欲しい

②今後フェスティバルで取り上げて欲しい内容としては

- 手術後（リンパ切除）むくみに対する生活の仕方について
- ランの再開
- 男性乳がんについて
- 乳房再建について
- 30代の検診のあり方について
- 乳癌と診断された時のメンタルケアについて
- サバイバー向けの治療
- サバイバーやケアギバー向けのメンタルケア
- 転移・再発について
- かつら・帽子について
- 乳がんの母を持つ子供をとりまく環境のこと、子供への伝えかた、学校の先生、保護者との関わり方のことなど

今後つくばピンクリボンの会に期待する活動があれば、お書きください。

30件のご意見が寄せられました。これからも継続的にピンクリボンフェスティバルを開催してほしいという意見が多くありました。

- 年ごとにテーマを決めてはどうか
- 検診に関する啓発活動、若年者に対する理解度を深める活動
- ヘアドネーション啓発活動
- 乳がん患者への平等性（社会性）の啓発運動
- 周辺の市町村にもイベントのちらし、ポスターを配布して欲しい
- 正しい知識を子供達に伝えてほしい
- 50～100名規模の講演会の開催か講師としての医療従事者の派遣の窓口になって欲しい

参加者の皆様、アンケートへのご協力をありがとうございました。ご意見を今後の活動に生かして行きたいと思います。

展示ブースの様子





♡ 会計報告

1. 収入の部

項目	金額 (円)
協賛金	1,288,000
寄附金	12,836
つくばピンクリボンの会から補助	403,728
収入合計	1,704,564

2. 支出の部

項目	金額 (円)
講師等謝礼金	140,000
会場費	498,640
大会イベント費	211,476
印刷物	508,164
旅費交通費	164,192
消耗品費	20,619
通信費	113,653
報告会費	45,660
支払手数料	2,160
支出合計	1,704,564

2018年6月20日現在

♡ 実行委員 (あいうえお順)

赤塚信子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
阿部八千代	北水会記念病院
飯島太郎	日本ボーイスカウト茨城県連盟つくば第3団
池田達彦	杏雲堂病院乳腺外科
石川えり子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
伊東孝子	たんぼぼ会
植野 映	つくば国際プレストクリニック
上野 修	上野歯科医院
太田代 紀子	おおたしろクリニック
大野純子	
小川直子	国立病院機構 水戸医療センター
小田陽子	筑波大学医学医療エリア支援室
海瀬博史	東京医科大学 茨城医療センター
春日きくえ	(一財)茨城県メディカルセンター
春日晴夫	
亀代直樹	(公財)茨城県総合健診協会
川上 清	茨城県ウオーキング協会
神田裕子	ピアサポートつくば
久保有沙	株式会社カスミ
小仁所圭子	石岡市医師会病院
小林裕治郎	(一財)茨城県メディカルセンター
駒崎公代	
齋藤さだむ	写真家
酒井恵里	株式会社カスミ
清水亮一	(一財)茨城県メディカルセンター
鈴木厚子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
鈴木もえみ	フリーアナウンサー
諏訪部まどか	くるみの会
田中佐代子	筑波大学芸術系
津田香緒里	つくば国際プレストクリニック
塚本英美子	
東野英利子	つくば国際プレストクリニック
長岡恵利子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
永田 脩	永田歯科医院
中野潤子	くるみの会
原 尚人	筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科
坂東裕子	筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科
平井理心	筑波大学附属病院 医療メディエーター
松原雪枝	
文 由美	つくばセントラル病院外科
宮崎満美子	
谷貝薫子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
八城健彰	日本ボーイスカウト茨城県連盟つくば第3団
柳田陽子	
山田光子	茨城県つくば美術館内 ミュージアムショップa
山田陽子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
吉澤智恵子	(公財)日立メディカルセンター
渡辺伊吹	
その他協力者	川俣尚子・他(茨城県メディカルセンター)

♡ 参加データ

講演会 **500名**
実行委員・ボランティア **100名**

♡ 取材協力

土浦ケーブルテレビ株式会社 J:COM茨城
財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス (ACCS)
茨城新聞



茨城県メディカルセンター有志作

発行：特定非営利活動法人つくばピンクリボンの会

Tsukuba Pink Ribbon Coalition

つくばピンクリボンフェスティバル2018実行委員会

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-1-1 筑波メディカルセンター メディカルスクエア2F

Tel&Fax 029-856-2002

